

## 第6回「渾身の用具開発、安心・安全を第一に創意工夫」

「僕はバットを投げることも地面に叩きつけることもしません。プロとして道具を大事に扱うのは当然のことです」これは日米のプロ野球で大活躍したイチロー選手の言葉ですがスポーツの普及には用具が欠かせません。そして多くのスポーツは用具の進歩にも支えられて発展してきました。

青柳清は、これを良く承知していて1998年の「スポーツ吹矢」団体立ち上げとほぼ同時に自分の会社であるダイセイコー内に「スポーツ吹矢」用具を研究開発する「リメイクサービスセンター」を設置しました。飛び道具である吹矢の事故を絶対に防ぐために自分の目の届くところで用具の研究開発を進め、販売したかったからです。

### ビックサクセス誕生!!

青柳清は「スポーツ吹矢」用具の研究開発に当たって何よりも「安心」「安全」の確保と「創意工夫」を求めました。とくに「安心」「安全」の確保では無事故に力を入れ、用具の購入者には住所、連絡先はもちろん本人確認を証明するものを提出してもらうなど最大限の努力を払いました。

また青柳清は「販売はアイデアで勝負!!」をダイセイコーの社員心得にするほど商品の開発でアイデアを重視しました。そして2006年には「リメイクサービスセンター」を「ビックサクセス部」に昇格させ、用具開発でも「創意工夫」を求めました。以来、ビックサクセスは青柳清の期待に応えて懸命な努力を続けます。

「筒」は最初、市販の「塩ビ管」(塩ビパイプ)を使用していたものをフェノール素材・グラスファイバー・カーボン・チタン・ステンレスと丈夫でより精度の高い素材に進化させました。

「矢」のピンは、これも市販の釘(丸釘)から球形の「NEW矢L(ラージタイプ)」を考案、これはカエシのない画期的な構造のため抜けやすく的も傷めず、気持ちよく真っすぐ飛ぶため愛好者の皆様に喜ばれました。この「NEW矢Lタイプ」は特許権も取得、今に至っています。

また「的」も発泡ポリエチレンの一枚的だったものを真中の得点部分を交換できるようにしました。コロナ禍では抗菌仕様の的シール・的紙を開発しました。

こうした努力で「ダイセイコー／ビックサクセス」の「スポーツ吹矢」関係のこれまでの知的財産は特許権を含め合計25件にも達しています。

「100-1=0」

これは青柳清の口癖の一つで「ビジネスでは一度信用を失うと取り返しがつかない」という意味です。幸い、青柳清が最も心配した「スポーツ吹矢」用具の事故は、これまで20年以上の間、1件もなく「ビックサクセス」は、今も「安心」「安全」を最優先し、ご利用者様が持って誇れる用具の研究開発に日夜、努めています。

さて用具開発を軌道に乗せた青柳清は次に全国の「スポーツ吹矢」の仲間が集える場所を探そう、と考えます。(以下次号)



◎最初の丸釘ピン(左)と「ビックサクセス」が特許を取得した「NEW 矢Lタイプのピン(右)」



◎吹矢の用具開発で20余年の実績を持つ「ビックサクセス」がコロナ禍で発表した「【抗菌】的シール」と「【抗菌】練習用的紙」。